



Team Noah

MEDIA RELEASE

2021年4月20日

OTOGONO KUNI

おとぎの国

HANKOOK  
driving emotion

Super  
Taikyū  
Japanese Endurance Race

## 「おとぎの国 CIVIC TCR」 2 戦連続のクラス優勝

PETRONAS  
SYNTIUM



DIXCEL  
ADVANCED BRAKE TECHNOLOGY

G72 SUPER COOLING  
SYSTEM



スーパー耐久シリーズ 2021 Power by Hankook に参戦する Team Noah の「おとぎの国 CIVIC TCR」は、4月17～18日にスポーツランド SUGO(宮城県)で開催された S 耐シリーズ開幕戦「SUGO スーパー耐久 3 時間レース」の ST-TCR クラスに参戦。ST-TCR クラスは 1 台のみの参戦だったが、無事完走で 2 戦連続のクラス優勝を果たした。

福岡に本拠を置く Team Noah(代表:清瀧雄二)は、“九州に元気を！九州のモータースポーツにもっとワクワクを！”を合言葉に九州のレーシングチームとして 2018 年より S 耐にフル参戦。昨年は新型コロナウイルスの影響で参戦を見合わせた。今季は 2 年ぶりに復帰を果たした。参戦車両は一昨年同様ホンダ・シビック TCR で、ドライバーは塚田利郎、蘇武喜和、霜野誠友、清瀧雄二という体制で臨んだ。今季の ST-TCR クラスは参加台数が減り、今回も 1 台だけの出走となった。したがって今回の目標もレースの完走と、ひとつ上のクラスである ST-Z クラス(14 台)の中団ぐらいでのゴールと設定した。

このレースも人数を制限した有観客で行われた。今回の舞台、スポーツランド SUGO はエスケープゾーンが狭くピット数も少ないため、安全面を考慮して全 54 台を 25 台の Gr.1(ST-X、Z、TCR、Q、1 クラス)、29 台の Gr.2(ST-2～5 クラス)に区分。それぞれのグループで 3 時間のレースを行う。

17 日は気温 14℃とこの時期の東北地方としては暖かいものの、朝から雨。午後の公式予選までに雨は上がったが、コースは完全ウェットコンディション。公式予選は A、B ドライバー 2 名のベストタイム合算で争い、塚田と蘇武のベストタイム合算の結果、総合で 23 位、ST-Z クラス相当では 14 位というポジションだった。霜野も問題なく基準タイムをクリア。清瀧は予選には出走しなかったが、大会審査委員会により決勝レース出走が認められた。

18 日は朝から晴天。しかし時おり冷たい突風が吹き、黒い雲がかかるとパラパラと雨粒が落ちることもあったが、路面を濡らすまでには至らなかった。Gr.1 の決勝レースは 12 時 57 分にスタート。スタートドライバーの塚田は ST-Z クラスの 2 台に挟まれる形で周回。途中前の車両を抜きにかかった際に ST-X クラスの車両 2 台と 4 台が並び冷やりとするシーンもあったが、目の前の車両をかわし、50 分間の運転のノルマを消化した 35 周でピットイン。蘇武に交代した。

蘇武は接近戦を繰り広げる ST-X クラスや ST-Z クラスのバトルに注意をしながら、途中給油のためにピットイン。燃費的にギリギリであったことと、最後のピット作業での時間短縮を狙ったものだった。さらに蘇武は 1 分 28 秒 113 というコースレコード(1 分 27 秒 810)に迫るタイムをマークして 50 周を周回。残りの 50 分弱を霜野に託した。しかし交代直後に、SP アウトコーナーの先で 2 台の車両が激しくクラッシュするアクシデントが発生したことから、セーフティカー(SC)が導入。コース上のオイルを処理するために、赤旗が掲出され 32 分を残してレースは中断となった。

オイル処理も終わり残り 14 分で SC 先導によりレースは再開、残り 9 分の時点でバトル再開となった。霜野は水温が上昇したために一度ピットインしてチェック。最後は蘇武を上回る 1 分 28 秒 049 というベストタイムをマークし、無事 94 周を走りきり 2 戦連続の完走で 2 連勝を遂げた。総合順位は 21 位、ST-Z クラスでは 12 位相当だった。

第 3 戦は、5 月 21～23 日に富士スピードウェイ(静岡県)においてシリーズ最長の 24 時間レースとして開催される。

塚田利郎「4 ワイドになったシーンでは接触もありましたが車両にはダメージもありませんでした。ドライ路面で走ることができて、ようやくこのコースを楽しめるようになりました。富士 24 時間ではホンダに 24 時間初優勝をプレゼントしたいですね」

蘇武喜和「レース中にコースレコードを更新しようと狙って走りましたが、なかなかそう簡単にはいきませんね。これまで予選は良くても決勝がということが多かったので、今回はそのあたりも改善。24 時間に向けて良い準備ができました」

霜野誠友「出ですぐに SC になったのですが、水温が高くなったのでピットイン。問題はありませんでした。金曜日に予選シミュレーションで 1 分 27 秒 76 が出たのですが、決勝レースでは時間切れでした。富士 24 時間も頑張ります」